

よりよい名草小学校をめざしてのアンケート結果より

本年度も11月に、全校児童と保護者、教職員を対象に、無記名のアンケート調査を行いました。「命の大切さ 社会のルールを教えてもらっている」という内容を低学年に加え、全校が同じ内容になるようにしました。集計は、これまで低学年と中高学年と2分割でしたが、低学年(1・2年生)・中学年(3・4年生)・高学年(5・6年生)と3分割にしました。方法と評価は、これまでと同様です。

4段階評価の児童アンケートは、4とてもそう思う 3まあそう思う を肯定的評価、2あまりそう思わない 1思わない を否定的評価と表現します。

保護者アンケートは、児童アンケートに 1わからない を加えた5段階評価です。児童と同様に、5とてもそう思う 4まあそう思う を肯定的評価、3あまりそう思わない 4思わない を否定的評価と表現します。

【児童】

「学校が楽しい」の項目では、肯定的な回答が、低学年96.3%(88.4%)、中学年91.2%、高学年では91.6%(91.2%)。*()内は昨年度の結果。中学年は、高学年で表示。以下同様に表示。

「勉強が分かる」の項目は、低学年86%(76.8%)、中学年79.8%、高学年89.6%(85.6%)。

平均すれば、ともに肯定的評価が昨年度より増えている。しかし、否定的評価があるということを重く受け止めなければならない。「学校が楽しくない」「勉強がわからない」と感じている原因を探り、より改善した対応を全職員で行わなければならない。

子供からの情報を詳細にとらえ「誰が どこで 何につまずいているのか」「なぜ、勉強に苦手意識をもっているのか」等の分析を丁寧にしなければならぬ。これまで以上に、個々の子供の特性を理解する力をつけ、特性に合わせた対応ができるよう研修を続けることで、全ての子供の学力が保障できるよう指導方法の工夫改善に努める。

また、子供が学校を楽しみと思えない理由を探らなければならない。勉強が分かることで学ぶ楽しみを感じさせるとともに、子供が多くの人とたくさん関わり、子供の世界を広げることも増やす。

「命の大切さ社会のきまりについて教えてもらっている」は、低学年91.8%、中学年86.2%、高学年87.5%(88.5%)

昨年度より少し下がっているが、中・高学年でも肯定的な結果である。

しかし、昨年度は日頃の取組に対してその結果が予想外に低いと考え、道徳・人権の学習方法を見直し工夫する必要があると校内の反省点の一つにあがっていた。にもかかわらず、今年度は更に下がっている。教師と子供とのズレがどこから生じているのか、その原因を探り指導に生かす。

昨年と同様に肯定的な回答率が高かったのは次の2項目であった。

「友だちと仲良くしている」低学年97.0%(94.2%)、中学年94.4%、高学年では95.8%

(98.0%): 否定的な回答の子供がいることを忘れてはならない。子供の個性のひとつとして、人との関わりを好まない場合もあるが、さみしい想いをしていないかを、しっかりみきわめなければならない。

「掃除を一生懸命している」低学年 88.9% (88.4%)、中学年 90.5%、高学年 94.4%

(88.4%): 昨年よりも肯定的な回答が増えている。登校後すぐに掃除の場所で準備にかかっている高学年の子供が少なくない。教職員も掃除に対する意識が高く、率先して活動している。本校の良き伝統の一つとして、今後とも子供と一緒に学校を美しくする取り組みを続ける。

次の3項目では、学年間の差が見られた

「気持ちのよい挨拶ができる」低学年 86.7% (74.6%—昨年度 83.0%)、中学年 75.5%、高学年 88.1% (81.6%—昨年 73.1%)

「家族に学校の出来事を話す」低学年では 80.8% (67.4%—昨年度 71.9%)、中学年 75.5%、高学年では 77.7% (78.4%—昨年 74.0%)

「給食が楽しみ」低学年では 76.3% (91.3%)、中学年 86.2%、高学年では 89.1% (87.6%)
地域の特産物を取り入れようと、保護者や地域の方に協力していただき、メニューに取り入れた。今後も続けたい。

「学校が美しく使いやすい」低学年 82.2% (76.1%—昨年度 82%)、中学年 72.4%、高学年 65.1% (75%—昨年度 65%):

【保護者】90.3%の回収率があり、保護者の皆様のご協力に感謝いたしております。昨年度と同様に、肯定的な回答が子供のよりも低く出ています。

学校に対する評価で、わからないの回答が10%を越えているのは、次の4項目であった。

「分かりやすい授業を工夫している」10.5% (肯定的な回答は、71.4%)

「いじめをなくす取り組み」16.7% (肯定的な回答は、58.7%)

「一人一人が大切にされ、認められる学校」13.4% (肯定的な回答は、65.2%)

「生命を大切に作る心や、社会のルールを守る教育」10.4% (肯定的な回答は、74.1%)

特に、肯定的な回答が低い項目については、子供が学校を楽しいと思うことと関わりがあると受け止め、一人一人の子供に寄り添ったきめ細かい対応を行う。また、「学校が、教育活動等を保護者に分かりやすく伝える」項目は、75%の肯定的な回答であるが、上述の結果からは、まだまだ不十分であったと反省する。学校・学級からの情報発信を一層工夫する。

学校生活に関する項目では「子供の安全確保・健康管理」が最も肯定的な回答が多く、79.0%であった。今後とも内容を見直し、継続していきたい。

学年間の差が大きかったのは「分かりやすい授業の工夫」で、肯定的な回答は、71.4%であった。学習内容にもよるが、子供の回答と合わせて真摯に受け止め、指導方法の工夫改善

に努めるとともに、保護者への情報提供やその方法についても検討をする。

「学校施設の教育的配慮と美しさ」の項目は、肯定的な回答が 56.3%と最も低かった。

使いやすく美しいと思えない事柄を明らかにし、整備を行う。また、建物の古さが、人々が積み重ねてきた歴史のぬくもりや懐かしさとなるよう一層行き届いた清掃活動に努める。

子供に対する項目においては、5項目中4項目肯定的な回答が75%「子供が楽しそうに学校へ行く」94.2%が肯定的な回答でした。昨年度の結果と比較すると、肯定的な回答が低学年で下がっています(2.6%)。子供の実態を見つめ直し、その原因を探るとともに対応を検討したいと思います。

「給食を楽しみにしている」83.3%が肯定的な回答であった。子供も肯定的な回答が多かったことから、今後とも一層充実するように努める。

子供に関する内容で最も肯定的な回答が低かったのは、「誰にでも挨拶ができる」59.6%であった。地域や家庭でも挨拶が習慣付くような取り組みを行うとともに、積極的に家庭にも協力を訴える。

「学校のことをよく話す」76.3%は、保護者対象の項目のなかで、子供の結果とよく似た値である。学校から情報を発信することが、家庭での会話のきっかけになることを期待し、家庭と学校とが協力し合って子供を育てるという視点からも、この結果を本校の課題として受け止めている。

回答枠の外、空白部分にご意見を詳細に記述してくださった方もいらっしゃいました。

一方、保護者の皆様の回答結果が昨年度と大きく変わっていないことについて、昨年度の反省を生かした取り組みに課題があったことを真摯に受け止めています。

【教職員】

「保護者地域との連携」とてもそう思う 25.0%、そう思う 75.0%であった。地域に開かれた学校として、教職員の共通理解ができている結果だと思われる。今後も、名草小学校の職員として、全員で子供の指導に関わる。

「総合的な学習の時間の充実」肯定的な回答が 75.0%と、施設設備の充実 85.7%以外は、他の項目が 90%を越えるのに比べると厳しい評価だった。名草校区は、学習教材が豊富である。恵まれた地域の財産を授業に取り入れることで、学習への興味関心が生まれ、郷土を愛する心も育つと考え、今後の課題として教材研究と実践に取り組む。

以上の結果をふまえ、名草小学校教育の成果と課題を真摯に受け止め、どの子供にも「楽しい学校」「よくわかる授業」を提供できる学校づくりに努めます。